

# J-POP の歴史

## ——日本の音楽シーンの変遷——

立見陸翔

本論文は、1988年のJ-WAVEによる「J-POP」という概念の誕生から現在に至るまでの変遷を、メディア環境の進化、産業構造の変化、そして聴衆ニーズの変化という多角的な視点から推察したものである。J-POPは当初、従来の歌謡曲と差別化された若者向けの音楽としてマスメディア戦略により地位を確立したが、1990年代後半のCD市場最盛期を経て、音楽を聴く媒体はレコード、カセット、MD、ダウンロード、そして現在のストリーミングサービスへと移行した。この変遷は一貫して「小型化」と「手軽さ」への追求であり、音楽消費の形態は物理的媒体の「所有」から、デジタルデータへの「アクセス」へと変化した。現代においてストリーミングサービスの台頭は、インディーズアーティストに機会を与えた一方で、「ランキングの固定化」という新たな課題を生んだ。このシステムはユーザーの好みに最適化されるため、未知の楽曲との出会いを阻害する側面があり、これに対しチャートの新陳代謝を促す「リカレントルール」の導入などが行われている。大学生54名を対象に実施した調査では、デジタル時代においてもタイアップが新規ファン獲得において重要であることが証明された。現代のJ-POPを取り巻く環境は、ストリーミングサービスによる「受動的」な面と、動画メディアやSNSを通じた「能動的」な面という二重構造にあり、情報過多により選択が困難な現代だからこそ、「タイアップ」の重要性は高まっている。テクノロジーが進化しても、人々が音楽に求める本質は変わらず、J-POPはその形を変えながらも意義を保ち続けると結論付けられる。